

熊谷市公民連携まちづくり 実践方針(ver.1)

令和6年4月

目次

1. 公民連携まちづくりに取り組む背景
2. 公民連携まちづくりに取り組むプロセスと目指すべき仕組み
3. 公民連携まちづくりに取り組む目的、重視する点等の設定
4. （参考）星川エリアにおける実践事例
5. （参考：研修用資料）熊谷市の公民連携まちづくりに必要な業務リテラシーと企画系の業務に携わる考え方について

1. 公民連携まちづくりに 取り組む背景

はじめに

- 今後、社会保障費の増大や、インフラ更新費用などが増す一方で、働く世代の減少などにより、財政状況は一層厳しくなることが予想されます。こうした状況を克服し、将来にわたって暮らしやすく、魅力あるまちづくりを進めるためには、公的負担の抑制、地域経済の循環、市民サービスの水準向上が必要です。
- そこで、市民や民間の皆さまと共にまちづくりを進めていくための考え方として「公民連携事業」の導入に取り組みます。
- 公民連携事業は、対象となる事業や手法、連携先などが様々考えられます。最適な方法を選択しながら、市民や民間の皆さまと共に、熊谷を一層魅力あるまちにしていまいります。

民の活躍が求められる背景 ～なぜ今、公民連携か？～①

- 市民のライフスタイルや意識は、「量」から「質」の重視へと変化しつつあり、また多様化しつつあります。
- 現在の熊谷のまちには、まちなみが老朽化して、インフラが低下し、魅力が失われ、人口が減少し、少子高齢化が進み、財政が逼迫し、まちの未来が心配されています。
- 複雑な課題に直面し、単独では解決が難しく、連携を求め、共同で取り組む必要があります。

民の活躍が求められる背景 ～なぜ今、公民連携か？～②

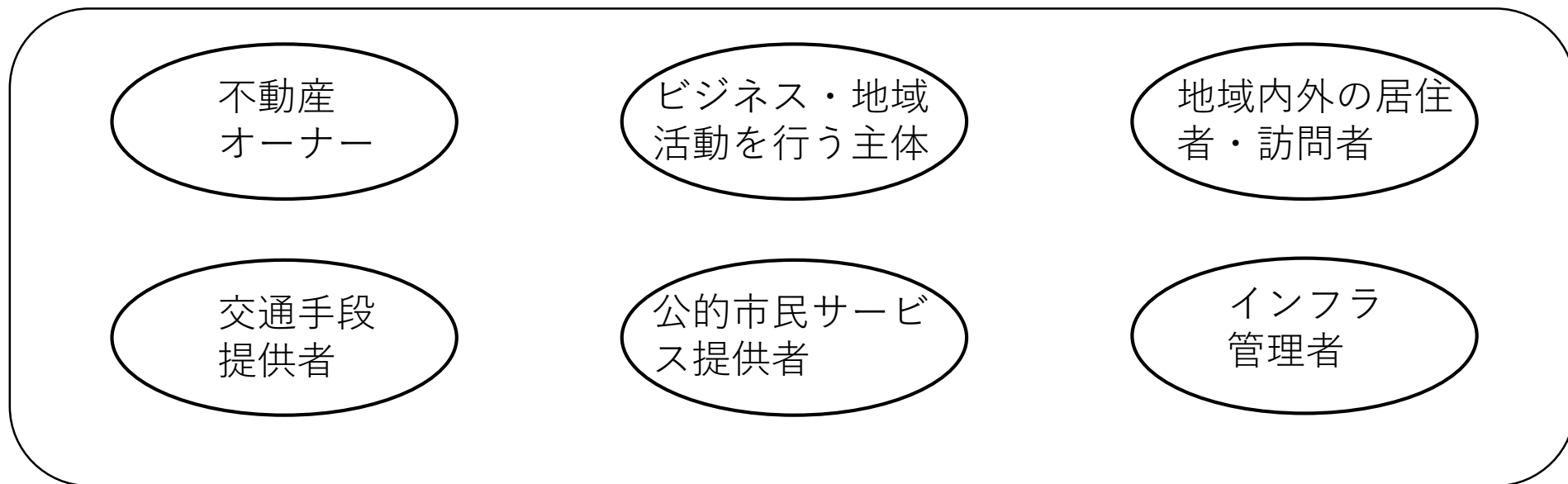
- 公民連携の取組の対象として、熊谷市ではまちなかの再生に取り組みます。
- まちなかは熊谷市の特色である様々な交通手段は接続する結節点であり、熊谷市全体を維持する上で重要なエリアと考えられます。
- また、各種のアセットがまだ残っており、地域の企業や人材をに活躍の場を提供することにより、雇用や新たな事業が生まれ、“地域内でお金がまわる”仕組みを構築できる可能性があります。
- また、公共的精神を持った民間団体等と連携し、公共のアセットを活用することにより、民間のノウハウを活かし、質の高いサービスあるいはウェルビーイング的な自己実現等につながる環境を市民に提供できる可能性があります。

2. 公民連携まちづくりに取 り組むプロセスと目指すべき 仕組み

「打席に立つつもりがある」ことの重要性

- 主体の性質に応じた「まちづくりの打席」についての議論を重視。
- どのような主体でも「まちづくりの打席」に立てる機会はある。
- まず、打席に立つつもりのある関係者同士が連携し、取組を始めることが重要。
- 立場や組織名でなく、「打席に立つつもりがある」ことを重視。（当事者意識の薄い様子見や下請けは「打席に立っている」ことにならない。）

【熊谷市の公民連携まちづくりに関わる主体の例】



公民連携まちづくりのプロセス

～以下のスマートシティ・データ活用まちづくりのプロセスは、システムやデータの重要性が異なるのみで、公民連携まちづくりのプロジェクトにおいても同様のプロセス・スキルを意識する必要あり～

■持続サイクルの上で必要な9つのスキル（随時更新）



- ① スマートシティにおいて【**目指すべき価値の調整・共有**】を行うスキル
- ② 必要な【**オープンガバナンスの場を設定**】し、得られた【**アイデアやどのような役割が必要かについての整理**】を行うスキル
- ③ 既存のシステムやデータを見渡し、【**どうすれば実現できるかを考える**】スキル
- ④ 実現のための仮説を、【**（必要なベンダー・有識者等の協力を得て）実行可能な内容に落とし込む**】スキル
- ⑤ 【**関係者と業務全体の要件・リスクを定義**】し、【**期間内に業務の成果が得られるようにマネジメント**】するスキル
- ⑥ 【**個別のタスクの期限と要件の兼ね合いを管理**】し、同時並行的に業務手法を改善したり、段取り管理の中間目標を設定するスキル
- ⑦ 政策のPDCA、EBPM等に【**どのようなデータが必要かを考え、取得方法や分析・活用手法を整理**】するスキル（市役所・大学等の政策企画関係者向けを想定）
- ⑧ 【**データを用い、まちづくり等の課題をステークホルダーに伝えて理解を促す**】と共に、【**将来像や解決策の立案にステークホルダーを巻き込んで公民連携のまちづくりを促進**】するスキル
- ⑨ 民間も含めた熊谷スマートシティの好循環のために【**地域（市役所内を含む）に必要なDX人材像・スキルを整理し育成手法を検討**】するスキル

公民連携まちづくりで目指すべき仕組み

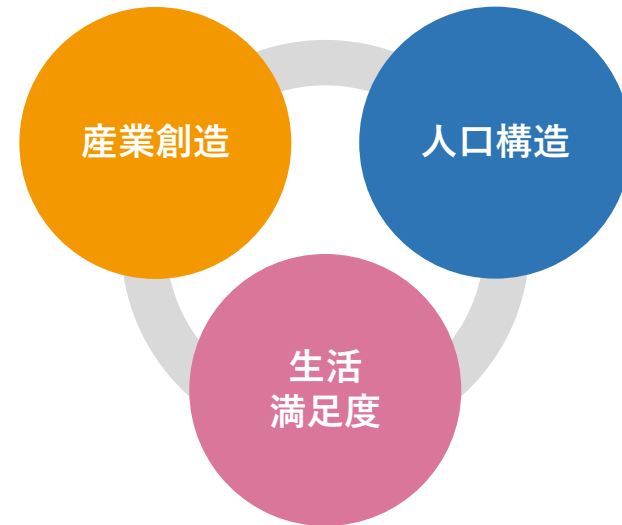
熊谷市の目指す持続可能な地域をつくるエコシステム

(産業D Xに係る未来発見・地域づくり構想)

産業D Xや公民連携により、産業を創造し、生活満足度を高め、人口構造を変えていくシステム

システムから得られるデータの活用や、事業者、大学との連携などの公民連携の取り組みなどから新たな産業の創造を目指す。

また、データを分析し市民ニーズに即した施策を行うことで生活満足度を高め、関係人口を含めた人口増加、転出抑制を図ることで、市民はもとより市外のファンも誇りに思える持続可能な地域づくりを行う。



新たな事業が生まれ、生活の満足度が上がり、人口が増える
『**地域の未来**』をつくる

3. 公民連携まちづくりにおける目的、重視する点等の設定

目的と手段

【目的の設定】

熊谷市では、当該エリアに住まい、学び、働き、訪れ、期待する方たちと、当該エリアの目的を描き、さらにご意見をいただいて「ビジョン」としてブラッシュアップを図っていくまちづくりの取組を推進します。

【手段】

設定された目的・ビジョンを実現するために、「民間・公共の希望者がまちの一員としてまちづくりの打席に立てる機会」を、あらゆる手段を講じて増やすことに取組みます。

公民連携まちづくりに向けて市役所の政策企画方針（コンセプト）として重視する点

以下の点を重視しつつ、市役所の所管するインフラの管理、市民サービス等の面から、民間が活力を発揮できるように努めます。

- ① コミュニティ
- ② 持続性
- ③ （まち、ひとの）ストーリー

（注）上記の政策企画方針（コンセプト）は「熊谷スマートシティ トータルブランディング方針」と連動。

公民連携まちづくりに向けて市役所として重視する基礎的なストーリー

「暑さ対策日本一」を掲げ、また「スマートシティ宣言」を行っている都市とし設定した以下の基礎的なストーリー、及び後に掲げる「特記事項」を踏まえたまちづくりに取組みます。

（ストーリーは随時修正・追加を検討します。また、エリアにおいて独自のストーリーを設定することも可能です。）

【ストーリー 1】 スマートクールシティへの市民参画

【ストーリー 2】 データ活用によるまちなかウェルカム、
コンパクト×スマートシティの取組み

（注）上記の基礎的なストーリーは「熊谷スマートシティ トータルブランディング方針」と連動。

【特記事項 1】 公民連携まちづくりと熊谷スマートシティとの連動のメリット①

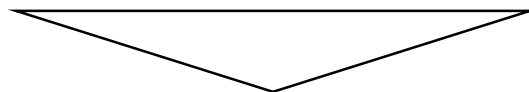
熊谷スマートシティでは、スマートシティ宣言(令和5年7月)の「デジタルと人の力で社会を前に進める」考え方の下、以下の内容に取り組んでいくことを「熊谷スマートシティトータルブランディング方針」「同 実行計画」に定めています。

以下の多くの内容は、これからの社会において、市民の誰もが自分なりの暮らし、生業、コミュニティ活動などを選んで満足度の高い生活を送っていく上で欠かせない要素となると考えており、熊谷スマートシティの提供する環境をぜひ活用いただきたいと考えています。

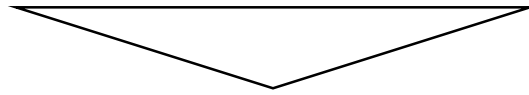
【熊谷スマートシティの取り組み例】

○「クマぶら」などを通じて、市内の各種サービスの内容を位置情報と共に分かりやすく提供することに取り組みます。

○デジタル地域通貨「クマ**PAY**」システムの無償での提供、コミュニティバスの回数券のスマートフォンでの利用などにより、サービス利用者、提供事業者双方の利便性の向上に取り組みます。

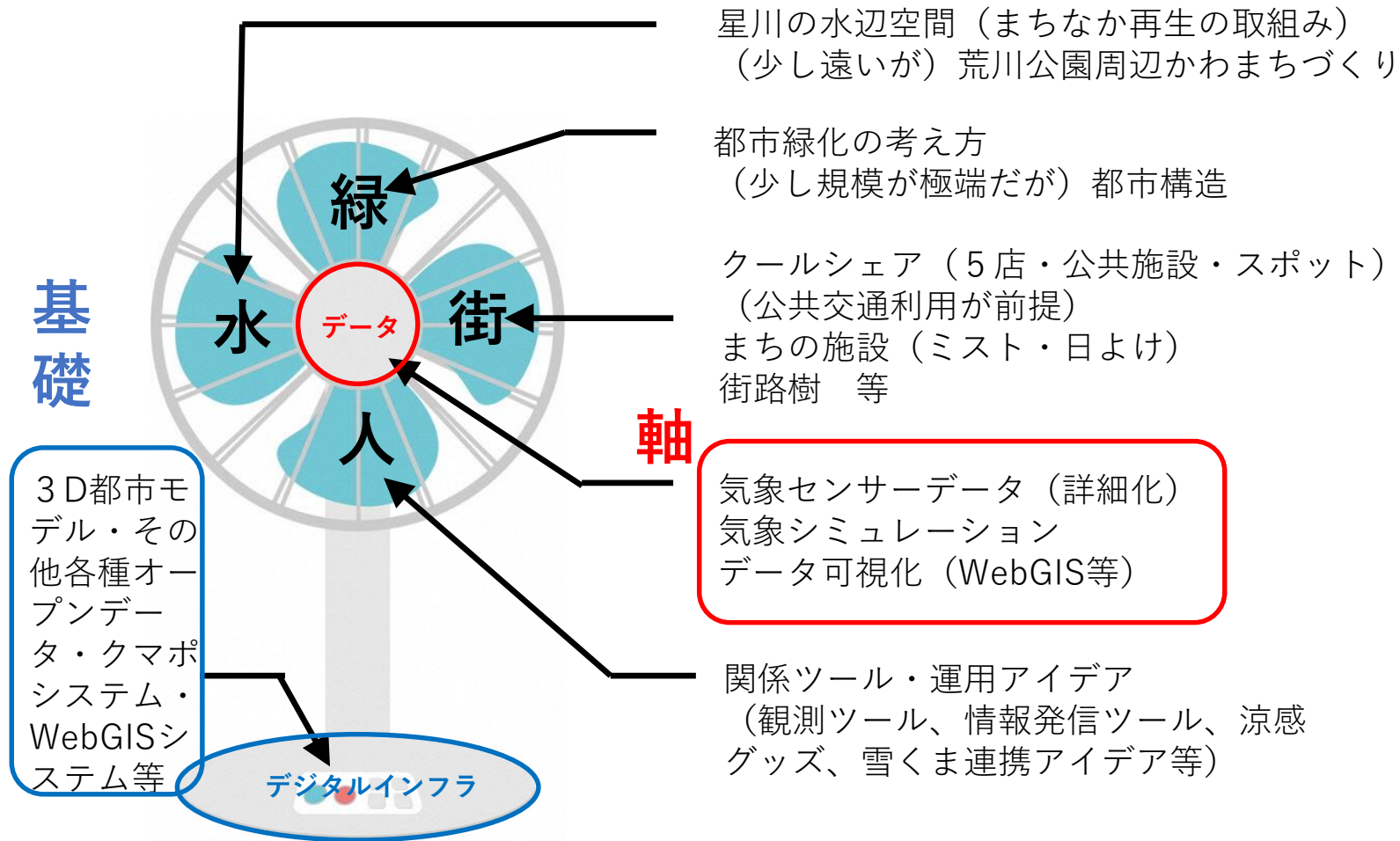


【特記事項 1】 公民連携まちづくりと熊谷スマートシティとの連動のメリット②



- Web**地図を活用し、市内のまちづくりの取組みを分かりやすくお伝えすることに取り組めます。
- 希望される方に向けて、**Web**地図ツールと、市役所がまちづくりの検討に用いているデータの提供に取り組めます。(原則として個人情報を含まないデータに限ります。)
- 時間、場所に縛られずに市民同士がご意見を交わす機会となる**Web**コミュニティの形成に取り組めます。
- 換金性のないコミュニティポイント「クマポ」による、新たなつながりの形成に取り組めます。
- デジタル技術によるサービスを受けることに苦手意識などによる格差が生じないように、講習の開催などに取り組めます。
- その他、多様な市民のアイデアを実現しやすいシステムやデータ、その運用の仕組みなどを含めた環境づくりに努めます。

■スマートクールシティへの市民参画ストーリーを構成する要素

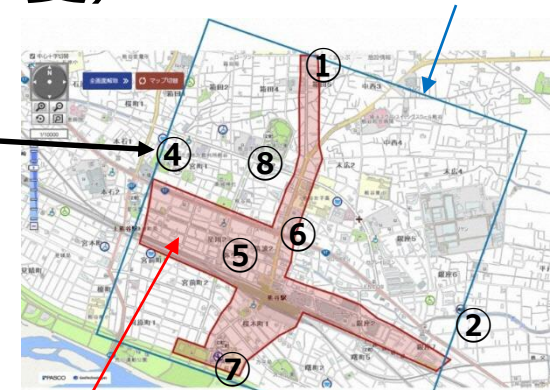


暑さ対策スマートパッケージ（令和6年、7年夏）

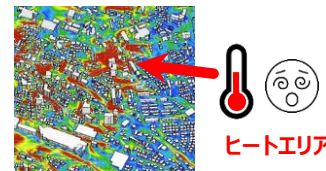
まちなか8か所に気象センサーを設置（令和5年度）
気象シミュレーションを実施



R5年度
気象シミュレーション範囲図
・シミュレーション範囲
熊谷駅を中心に徒歩15分圏内約2 Km
四方を想定



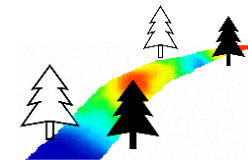
気象シミュレーションから、**ヒートエリア**となる空間・
時間の情報を**スマホサービス（クマぶら）**で提供



まちなかの**クールシェアスポット**を優先表示
暑い場所にある**クールシェアスポット**に**クマポ**を優遇付与



まちなかでの暑い箇所を緑陰・日陰状況によりう回する
目安として**道路の温熱環境**を可視化

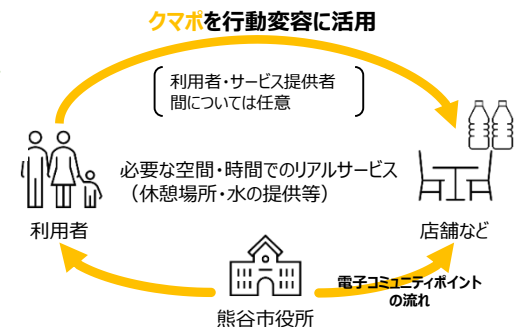


暑さ対策スマートパッケージ

今後の活用：気象データの研究活用や店舗利用者データの人流分析へ



スマホサービ
ス
(クマぶら)



市民・来訪者と店舗が
Win-Winのまちなかウェルカム

【特記事項 2】 公民連携まちづくりと交通まちづくりの連動の必要性①

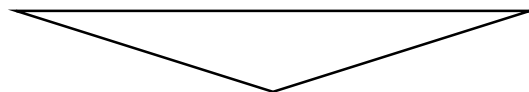
熊谷市では、公共交通網の環境が厳しさを増す中で、熊谷市地域公共交通会議における「地域公共交通計画」の検討などの場で、以下の方針を設定しています。

平成26年にコンパクト+ネットワークのまちづくりに向けた都市・交通の改正法が施行されてから10年、交通に係る課題の深刻化と、解決策となりうる各種技術の発展のバランスは、予断を許さない状況です。

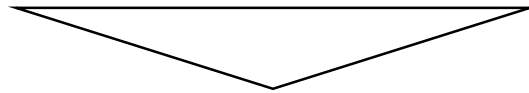
熊谷市においては、個別の各エリアにおけるまちづくりビジョン等との連動の観点を重視しつつも、以下の整理の下、交通ネットワークのセーフティネットとしての側面と、人流確保による地域の活力維持の側面の両面において、対策の導入時期を失することのないよう、調整・実行に取り組みます。

【交通ネットワークのセーフティネットとしての側面と、人流確保による地域の活力維持の側面の整理について】

○熊谷市はこれまで近隣自治体に比べて密度の高い路線バス・コミュニティバスの路線網を維持してきました。



【特記事項 2】 公民連携まちづくりと交通まちづくりの連動の必要性②



○しかし、運転士の人数の不足により、業務環境を確保しつつ、これまでどおりのサービスを提供することは困難な環境になりつつあります。

○熊谷市では、この事により、「通院などに交通手段が必要な方へのサービス提供」（セーフティネットの側面）と、「自分らしく暮らす行動が制約されることでの地域の活力の低下」（地域の活力維持の側面）の両面の課題が生じるものと考えています。

○具体的な対応としては、前者について、①ICTを活用して必要な方へのサービス確保に取り組むと共に、後者について、②まちなかを自転車や徒歩を含む様々な交通手段の結節点としてとらえ、市域全体のコンパクト&ネットワークの取り組みと連動しながら、活力のある地域づくりに取り組む方針です。

○地域全体の交通ネットワークとコンパクトシティの両立による持続的な地域づくりは喫緊の課題であり、また取組みに影響を与える規制や技術の変化の速度が近年上がっているため、当面の間、上記①②の両面で積極的な情報収集、検討、実証などに取り組むべきと考えています。

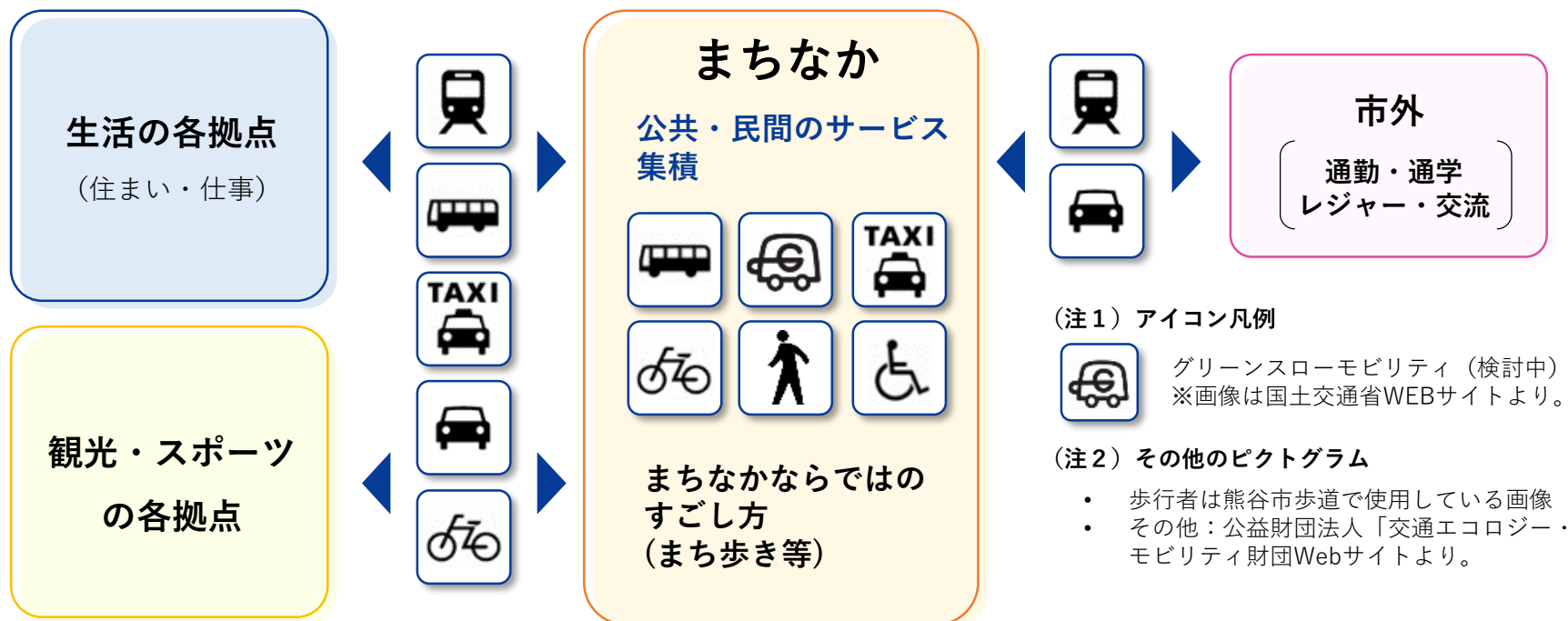
○なお、検討にあたっては、生活の中での徒歩による移動の健康の維持に与える効果等についても、考慮するものとしします。

■データ活用によるまちなかウェルカムのストーリー（１）

（人流データ活用まちづくりについて）

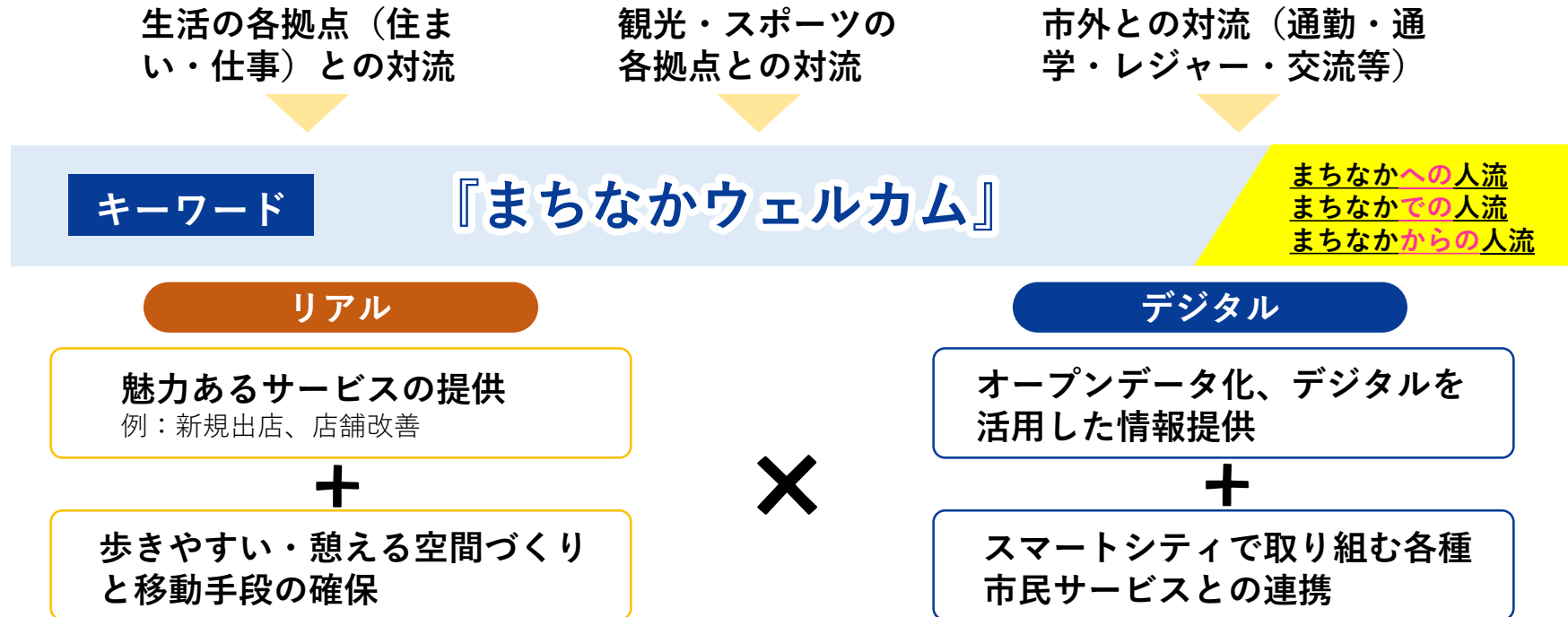
～まちなか再生の切り口からのアプローチ～

「まちなか」から見た人流のイメージ



■データ活用によるまちなかウェルカムのストーリー（２）

（まちなかでの体験創造・実証の場の検討）



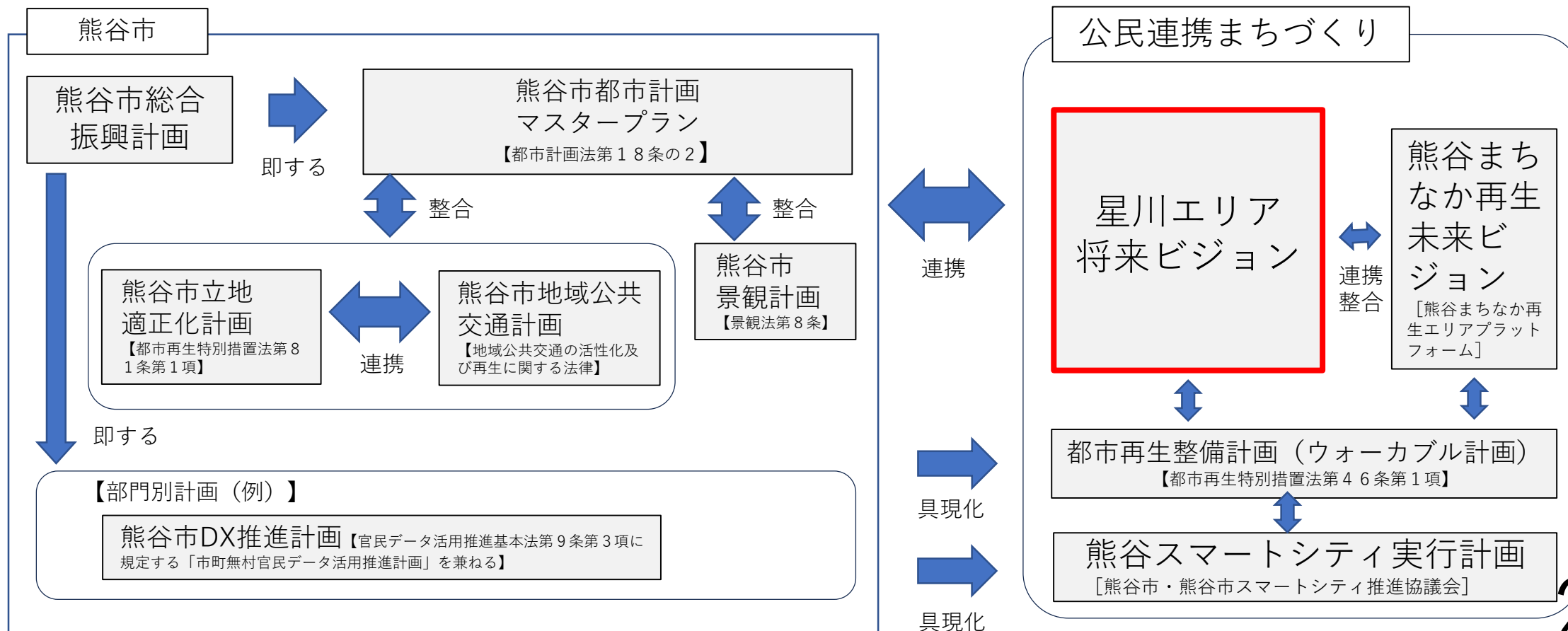
連携しての効果発揮のためには、人流データを活用した実施内容の検討・検証が不可欠

4. (参考) 星川エリアに おける実践事例

星川将来ビジョンの策定の目的

ビジョン策定の目的は、まちづくりに関わる皆さんの新たなまちづくりを推進するための道しるべとして、エリアの将来像、ビジョンを共有することです。ビジョンを共有し、新しいプレーヤーが活躍できるよう支援する体制を整えとともに、新たなチャレンジにみんなが連携して取り組み、様々な活動を推進していくことで、穏やかにぎわいを創出し、熊谷らしい暮らし方、スタイルを確立することを目指していきます。

【星川エリア将来ビジョンの位置付け】



ビジョンを具体化するための 「熊谷市公民連携まちづくり実践方針」について

地域で策定したビジョンを公民連携の手法を活用して具体化していくためには、実現していく段取り（実装プロセス）、目指すべき仕組み等について、行政と民間が大まかな方向性を共有し、実践の中で地域にふさわしい形に調整していく必要があるため、その方針をとりまとめたものです。

星川将来ビジョン

- ・ 目的等
- ・ 追加的なコンセプト・ストーリー

公民連携による
各種団体へのヒ
アリング・報告

熊谷市 公民連携まちづくり実践方針

- ・ 基礎的なコンセプト・ストーリー
- ・ 実装プロセスのデザイン
- ・ 目指すべき仕組み（概要）の提示

熊谷市ウォーカブル計画（都市再生整備計画）

- ・ 関係する事業案の概要等

熊谷スマートシティ宣言

- ・ 理念・目的等

公民連携のス
martシティ
推進協議会

同 トータルブランディング方針

- ・ 基礎的なコンセプト・ストーリー
- ・ 実装プロセスのデザイン
- ・ 目指すべき仕組み（概要）の提示

同 実行計画

- ・ 目指すべき仕組み（詳細）の提示
- ・ 関係する事業案の概要等

関係ガイド
ライン等

星川将来ビジョン（Ver1.0）に示された方向性

地域の状況分析や、星川地域についての市民からの意見の聞き取りを経て、方向性を整理しました。
 （画像は星川将来ビジョンの一部抜粋です。ビジョンの全体は右の2次元コードからどうぞ。）



タイムスケジュール

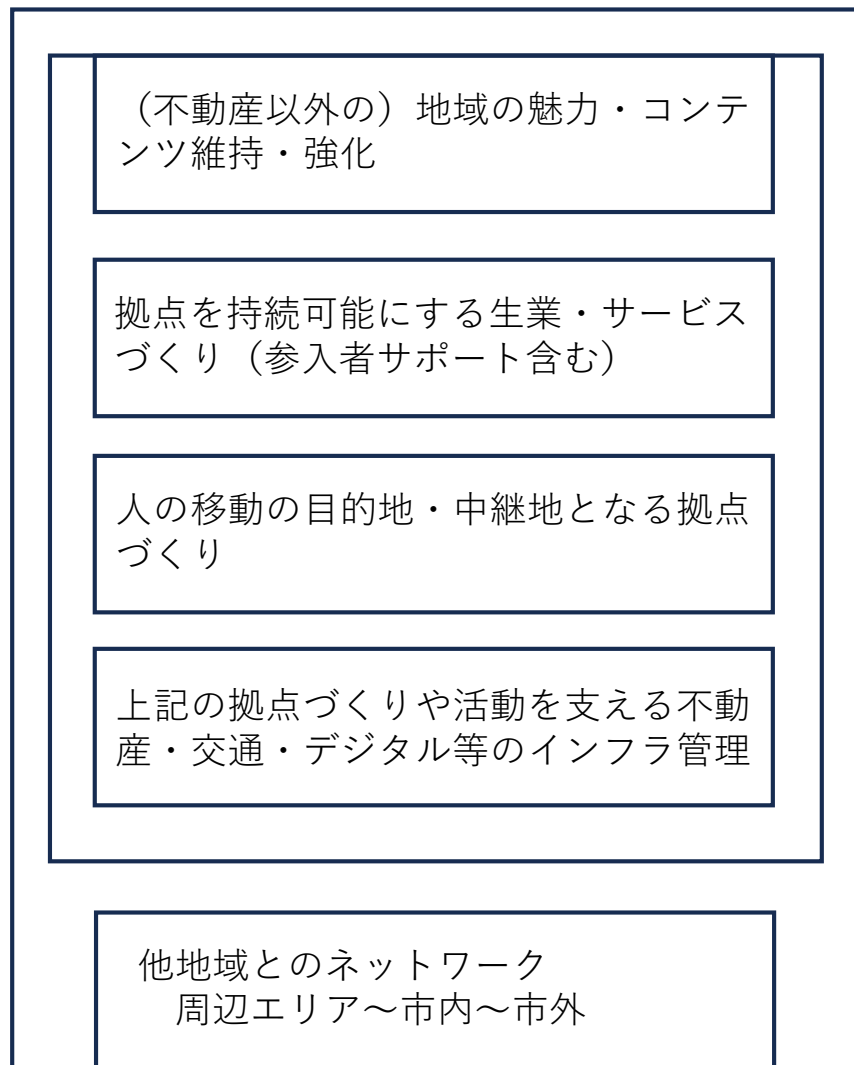
星川の将来のまちづくりに向けて、6つのテーマを設定しましたが、テーマごとの主な取組を時系列（短期：3年以内、中期：3～6年、長期：6年以上）に分け、次のようにまとめてみました。
 なお、今回のビジョン作成時のものですので、今後、「みんなで考え」「みんなで実施」を目指す中で、随時、見直しを行っていく必要があります。

まちづくりの6つのテーマ	01 川と触れ合える	02 時間を過ごす	03 新しい活動が生まれる	04 涼を楽しめる	05 誰でも訪れやすい	06 まちを知れる
テーマごとの取組	環境づくり 入りたくなる川の環境づくり 川と触れ合い、遊べる環境づくり 魅力づくり 川を活かした魅力づくり 居心地の良い場所づくり 訪れたいコンテンツづくり 体験や刺激 ここでしか得られない 新たな出会いがある環境づくり 新規チャレンジできる環境づくり 涼を楽しむ 熊谷らしい日陰や涼のデザイン 歩いて涼しい川沿いの環境づくり 誰でも訪れやすい 安心して暮らせる環境づくり 通行できるストリート 歩行者が安全に来やすい環境づくり 星川の歴史が知れる 星川がこれからは知れる	清掃 水量・水質の改善 遊べる場所の整備・拡充 沿道店舗の目的にぎわいの拡大 居場所づくりの拡充 目的の創出 魅力の創出 居心地の良い場所づくり 訪れたい環境づくり 繰り返して訪れたいと思える環境づくり 若者の立ち寄り場所の検討・整備 新規出店などへの支援 チャレンジできる場の検討・整備 市有物件などの有効活用 川沿いを歩ける環境の検討・整備 心地よい景観の検討・整備 熊谷らしい暑さ対策の検討・実施	川床・トイレの検討・整備 星溪園社会実験 居場所づくりの拡充 目的の創出 魅力の創出 居心地の良い場所づくり 訪れたい環境づくり 繰り返して訪れたいと思える環境づくり 若者の立ち寄り場所の検討・整備 新規出店などへの支援 チャレンジできる場の検討・整備 市有物件などの有効活用 川沿いを歩ける環境の検討・整備 心地よい景観の検討・整備 熊谷らしい暑さ対策の検討・実施	歩いて涼しい川沿いの環境づくり 誰でも訪れやすい 安心して暮らせる環境づくり 通行できるストリート 歩行者が安全に来やすい環境づくり 星川の歴史が知れる 星川がこれからは知れる	誰でも訪れやすい 安心して暮らせる環境づくり 通行できるストリート 歩行者が安全に来やすい環境づくり 星川の歴史が知れる 星川がこれからは知れる	まちを知れる 星川の歴史が知れる 星川がこれからは知れる
短期（～3年）	清掃	川床・トイレの検討・整備	星溪園社会実験		社会実験	情報発信の継続・拡充
中期（3～6年）	水量・水質の改善	沿道店舗の目的にぎわいの拡大	居場所づくりの拡充	川沿いを歩ける環境の検討・整備	市営本町P社会実験	案内板・解説の充実
長期（6年～）				熊谷らしい暑さ対策の検討・実施	市営本町P一部無償化	イベント・活動の継続・拡充



星川将来ビジョン（Ver1.0）実現に向けて考慮すべき要素

熊谷市公民連携まちづくり主要5要素



ハード政策

社会基盤の整備、
既存建物の活用
など

ソフト政策

共創の仕組みづ
くり、情報発信
など

デジタル政策

インターネットやデー
タの一層の活用
など

熊谷市公民連携まちづくりに関係する 熊谷スマートシティの要素（抜粋）

熊谷スマートシティ宣言

熊谷スマートシティ
トータルブランディング方針

【ストーリー】データ活用によ
るまちなかウエルカム等

【ストーリー】スマートクー
ルシティへの市民参画

コモンデータ・Webコモン
スペースの考え方

5. （参考：研修用資料）

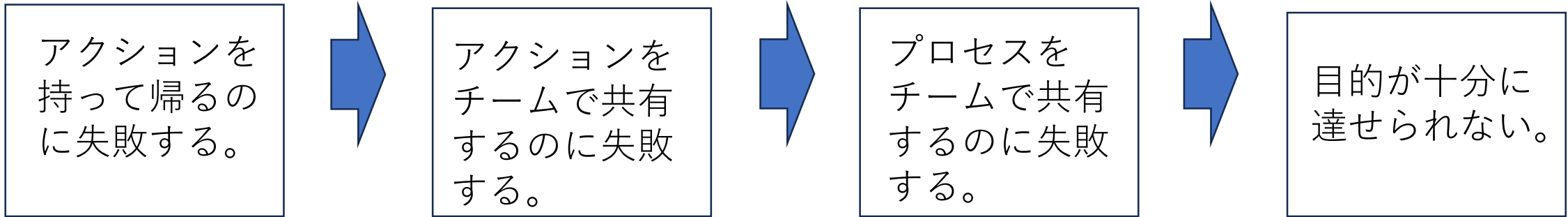
熊谷市の公民連携まちづくりに必要な
業務リテラシーと企画系の業務に携わ
る考え方について

（１）課題と検討の情報共有等の リテラシーについて

公民連携まちづくりで重視する情報共有リテラシー

(以下の「○」にあたる情報共有のリテラシーがスキルの前提であることに留意)

【望ましくないと考えられるパターンから、それを生み出す考え方・回避する考え方を整理】



まず自分で考える。
締切管理している
ので不明部分の確
認は後で良い。

他の人は忙しそう
なので情報共有は
控える。

作りかけで口をだ
されたくないので
情報共有は控える。

打合せ前に気づいても、情
報共有がされていないので
誰もとっさにフォローでき
ない。
見た目は整っている。

目指す成果の行き
違いが生じる要素
をできるだけ早く
つぶして共有でき
るアクションにす
る。

共有することを自
動的にするだけで
も目指す成果の行
き違いが防止でき
る場合あり。

法令と最新の運用
通知を適切に適用
する業務と政策の
「企画」「調整」
業務の違いを意識
する。

「きちんとまとめ
た資料を見せてく
れた」ではなく、
「有意義な打合せ
だった」と言って
もらえるのが価値。

公民連携まちづくりで重視する打合せ運営リテラシー

【1】打合せ前の共有内容

- (1) 会議名・日時・手法・会場もしくはURL（これは直前でも可）
- (2) 議題（説明者もしくは進行者を含む進行予定の箇条書き） ←最重要
- (3) 事前資料（「仮」の資料であっても早期に一度送付。）

【2】打合せの実施

- ・常に、全体像（より長期の目的、目標、関係者、関係行事など）から詳細部分につながる取扱いを心がける。
- ・継続的な打合せについては、冒頭で前回の打合せ記録を確認する。
- ・セレモニー的な打合せを除いて報告内容の読み上げに意味はない。（口頭説明は、黙読では伝わりにくいポイントを伝えることに集中する。）
- ・共有すべき点であっても、それぞれの部分に関わる各々の参加者と一問一答すること、他の参加者の時間を使う必要があるかどうかについては、常に配慮し工夫すること。（例えば企画を箇条書きにし、確認を要するポイントをマークするなどにより、どの程度の重要性がある課題か示した上でご意見をいただく等。）

【3】打合せ記録（原則打合せ毎に作成）

- (1) 決定事項（新しく追加したもの）
- (2) 宿題（アクション）：期日と担当者を明記 ←関係するガントチャート・関係者相関図等は常に参照できる状態であること。
- (3) （アクションに仮置きが難しいスケールのものがあれば）積み残し課題
- (4) 今後のスケジュール（次回開催予定等）
- (5) 上記を管理することで、原則として議事録の作成を不要とする。やむを得ず、上記の形式の整わない議事メモで共有する場合は、（1）～（3）に当たる内容を重要なものから6行にまとめた概要を共有。

（２）企画系の業務に携わる考え方について

複雑化・予測困難・急速な変化の時代をスマートシティ・公民連携 まちづくりで乗り切るための対応について

【方向性】

難易度高



・外部人材のネットワーク

(※) 市役所が中心となるだけでなく、市外人材を市民とつなぐ視点も重要

・ブランディングによる共感の重視

(※) 組織の外向け・内向きの双方

・庁内人材育成の強化

・目の前の業務の円滑・適切な実施

【実現手段】

難易度高



○市外・市内専門家と基盤となるビジネスの関係を築きつつの、共創の関係による価値の増大

(※) 【内部】市役所の「なぜ委託が必要か」の整理にかかる財政規律面には変化はないが、企画系の業務については同じ委託発注でも発注元の姿勢により付加価値が大きく変動。

(※) 【対外】お任せでの企画委託は高くつくだけで成果が見込めない。市役所も情報・価値を提供しての共創に応じてくれる相手方の確保が重要な課題に。

○市外・市内専門家との、Web会議の普及を最大限に活用したアーキテクト、特別審査員、各種委員などの関係づくり

○市内関係者 (※) とのボランタリーな関係

(※) より魅力ある市を目指せる見込みがなければ拒否・転出される可能性も。

○職員の派遣先の多様化 (国の機関等)

○プロジェクトチームの組成によるOJTの強化

付加価値を生むために専門家の支援を受ける業務に関して必要なマインドセット

- △ この費用の業務であれば月割でこれだけは貢献してもらいたい。
～財政規律の上では要求時にこのような視点も必要ではあるが、企画系の業務については、以下の観点も踏まえつつ、目的に合わせて効果の最大化を図る工夫も含め適切な執行に取り組む必要がある。
- この費用の業務であれば、この費用以上の成果を市に残せるように執行する。
～企画系の業務の場合、長期・関係事項の視野については市役所側が提供しなければ委託先の自助努力には限界がある。発注側は「一時的に伴走を受ける」感覚で、主体的な走者として成長の努力をし、走者としての要望を伝える必要がある。（それが企画系業務の本来の「専門性が必須」の状況。）

 適切に運用しないと・・・。

【想定事例 1】 見た目がきれいな資料に引きずられて、本来の目的に引き戻すための余計な業務負荷が発生する場合がある。

（アジェンダ設定やアクション管理も、「共創の関係による付加価値の増大」を図る業務については、当該年度の予算執行の細部チェックだけでなく、目標に応じた長期・関係事項を含む視野が必要であることに留意。）

【想定事例 2】 共通目的に向かえているかの確認を常時行うことなく「問い合わせにまめに応えてくれる」「直接対面を重視している」など手段・外見を評価してしまうと業務改善の妨げになる場合がある。

（共創についても同様。相手も「価値のある仕事に参加している」と思ってもらえた場合に、価値の追加に向けた共創の一環としてやりとりが頻繁になることを目指すべき。）